

## 音楽科学習指導案

4年3組 29名 指導者 福留三穂

本授業では、以下の検証を行うものである。  
 〔共通事項〕に気付かせたり、音楽を形づくっている要素を表す言葉や音符や記号を用いたりする活動を充実させたりすることにより、子どもたちは自分の思いや意図をもって表現する力を高めることができたか。

## 1 題材 いろいろな音のちがいを感じ取ろう

音集め

「音のカーニバル」 芙龍 明子 作詞／橋本 祥路作曲

木管楽器の音楽

## 2 目標

音の特徴や音色の違いを感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにするとともに、イメージに合った音を自分の思いをもって表現の仕方を工夫することができるようにする。

## 3 題材の評価規準

- 音の特徴や音色の違いに関心をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。  
【音楽への関心・意欲・態度】
- 音色や響きの違いを感じ取って、音の出し方や組み合わせ方を工夫している。  
【音楽的な感受や表現の工夫】
- 音の特徴や音色の違いを生かして、イメージに合った表現をすることができる。  
【表現の技能】
- 楽器の音色の違いや美しさを感じ取りながら聴くことができる。  
【鑑賞の能力】

## 4 題材について

## (1) 題材の価値

子どもたちはこれまでに、「歌と楽器のひびきを合わせよう」の題材において、歌と楽器の響き合いの美しさを感じたり、歌と楽器との響き合いを楽しみながら演奏したりする能力を身に付けてきている。また、曲想を生かしたふしをつくって演奏する活動を通して、旋律が重なり合って響く美しさや旋律の重なり方のおもしろさを味わう能力も身に付けてきている。

本題材では、様々な音を集めて、音の響きやその組み合わせを楽しむ曲や、音のよさや特徴を感じ取りやすい曲を教材とした。これらを学習することにより、子どもたちは、音の特徴や音色の違いを積極的に感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようになるとともに、自分の思いに合った音を探して、表現の仕方を工夫することができるようになることをねらいとした。

「音集め」は、打楽器や身の回りの物から出る音を聴き比べることにより、楽器や物の材質、奏法によって音色や響きが違うことに気付くことができる。また、奏法や音の組み合わせ、演奏の順番などを工夫して、音色や響きの感じ方を話し合ったり、音から情景を想像する活動をしたりすることで、様々な発想をもって表現したり、自分の思いをもって表現をしたりすることができる。

「音のカーニバル」は、リズムに乗って歌っていると、自然に手拍子を打ったり打楽器を演奏したりしたくなるような歌とリズムが一体化している曲であり、いろいろな打楽器や身の回りの物でつくった音を使って、歌と一緒に楽しく表現することができる。自分たちのイメージに合った音をつくる活動では、一つの音をみんなで確かめ合うことにより、共感したり、様々な発想が生まれやすくなるので、友達と協力して活動する楽しさを感じることもできる。また、お互いの演奏を聴き合うことで、音の特徴や音色の違いから感じ取ったことを自分の演奏に生かしたりすることもできる。

「木管楽器の音楽」は、3種類の木管楽器の音色の違いを感じ取って聴き比べたり、楽器固有の音色を生かした音楽を聴いたりすることができる。主な旋律を口ずさんだり、情景を想像したりすることで、「音楽を特徴付けている要素」と「音楽の仕組み」とのかかわり合いによって生まれる曲想の違いに気付かせることができる教材として適している。

この学習は、4学年の教材「曲の気分を感じ取ろう」「音をきき合って合わせよう」における、音の重なりや響きを感じながら演奏する学習や、音楽から様子を思い浮かべながら演奏する学習へと発展していく。このような学習をすることにより、子どもたちは、自分の思いや意図をもって豊かな表現ができるようになるものと考えている。

## (2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは、音楽科の学習に対する関心・意欲が高く、歌ったり演奏したりする学習では、進んで表現する子どもが多い。しかし、歌ったり演奏したりする学習において、「音楽を特徴付けている要素」や「音楽の仕組み」を聴き取り、それらのかかわり合いによって生み出されるよさや美しさを感じ取ったりする能力や、自分の思いや意図を言葉で伝え合いながらより豊かな表現を追究する能力は、まだ十分とは言えない。

そこで、自分たちの演奏や教材曲を〔共通事項〕の「音楽を特徴付けている要素」や「音楽の仕組み」を観点にして聴かせることにより、音色や速さ、強弱、リズムなどの〔共通事項〕に気付かせるようにする。また、一人一人の感じ方のよさに気付いて認め合ったり、自分の思いや意図を明確に伝えたりする活動を設定することで、互いの思いや意図を共有しながらより豊かな表現を追究できるように指導していく。

## 5 指導計画（総時数8時間）

| 主な学習活動【評価規準】                                                                                                            | 〔共通事項〕          | 時間        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-----------|
| 1 題材「いろいろな音のちがいを感じ取ろう」の教材曲を聴き、題材への思いや願いをもちながら学習を見通すとともに、学習計画について話し合う。<br>【関：教材曲に興味・関心をもち、進んで学習計画について話し合おうとしている。】<br>音集め |                 | 1         |
| 2 打楽器や身の回りの物から出る音を聴き比べたり、音の出し方を工夫したりして、いろいろな音色をつくる。<br>【関：音色の特徴や違いに関心をもち、進んで音を探して聴いたり、演奏したりしようとしている。】                   | 音色<br>リズム<br>強弱 | 1         |
| 「音のカーニバル」                                                                                                               |                 |           |
| 3 曲の特徴を感じ取って聴いたり、特徴を生かしながら歌ったりする。<br>【技：拍の流れに乗って歌ったり、手拍子を打ちながら歌ったりすることができる。】                                            | 音色<br>リズム       | 1         |
| 4 自分たちのイメージに合った音づくりをする。<br>【関：音の特徴や音色の違いを感じ取り、自分の思いに合った音を探している。】                                                        | 強弱<br>反復        | 1         |
| 5 海や宇宙などの自分たちのイメージに合う「音のカーニバル」をつくる。<br>【感：音の出し方や楽器の組み合わせと、音楽の要素とを関連させながら、イメージに合う音を自分の思いをもって表現している。】                     | 問いと答え<br>変化     | 1<br>(本時) |
| 6 自分たちでつくった「音のカーニバル」の発表会をする。<br>【技：拍の流れに乗って、イメージに合ったを演奏することができる。】                                                       |                 | 1         |
| 木管楽器の音楽                                                                                                                 |                 |           |
| 7 3種類の「とんび」の音の違いを感じ取って聴いたり、場面や情景を想像したりして聴く。<br>【関：音色の違いに関心をもちて聴こうとしている。】                                                | 音色<br>速度<br>強弱  | 1         |
| 8 楽器の音色や特徴を聴き取り、曲の雰囲気を楽しむ。<br>【鑑：木管楽器の音色の特徴や曲想の変化を感じ取って聴くことができる。】                                                       | 拍の流れや<br>フレーズ   | 1         |

## 6 本 時（5／8）

### (1) 目 標

音の出し方や楽器の組み合わせと、音楽の要素とを関連させながら、イメージに合う音を自分の思いをもって表現することができる。

### (2) 評価規準

音の出し方や楽器の組み合わせと、音楽の要素とを関連させながら、イメージに合う音を自分の思いをもって表現している。 【音楽的な感受や表現の工夫】

### (3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、手拍子や楽器でリズム打ちをする活動を通して音楽の要素を工夫をすることで、曲の感じ方や響き方が変わることを紹介する。また、感じたことと音楽の要素や仕組みとの関連に気付かせるために、「音楽のもと」の言葉を用いて発表させたり、関連を板書で整理したりする。「見通す」過程では、学習の進め方について話し合うとともに、音楽の要素や仕組みをキーワードにして音を組み合わせればよいことに気付かせる。「追究する」過程では、音楽の要素や仕組みと、音の出し方や組み合わせを関連させながら活動させるようにする。また、イメージに合った音色が拍の流れに乗って演奏できるように助言していく。「磨き合う」過程では、イメージに合った演奏をするために工夫した音楽の要素や仕組みを紹介してから発表させることで、表現の良い点を自分たちの演奏に生かすことができるようにさせる。「振り返る」過程では、本時のめあてをもとに自己評価をさせたり、互いのよさを認め合わせたりすることにより、イメージに合った音を自分の思いをもちながら組み合わせる学習の楽しさを味わわせたい。

| 時        | 過程              | 主な学習活動と教師の手立て・評価                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7<br>(分) | つかむ             | <p>1 「音のカーニバル」のリズムを手拍子や楽器で打ちながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るくはずむ感じの曲だったね。</li> <li>・四分休符に気を付けて手拍子をしよう。</li> <li>・手拍子する人数や楽器が変わると曲の感じも変わるね。</li> </ul>                                                                                                                   |
|          |                 | <p>2 学習課題と追究方法を確かめる。</p> <p>イメージに合う音を選んで「音のカーニバル」をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな音が合うのかな。早くみんなで考えたいな。</li> </ul>                                                                                                                                                       |
| 22       | 見通す<br><br>追究する | <p>3 学習の進め方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくたちのテーマは、森のカーニバルだった。どんな音が合うかな。</li> <li>・鳴らす順番はどうしようかな。</li> <li>・音の出し方の工夫を思い出すといいね。</li> <li>・「音楽のもと」を使えばよさそうだよ。</li> </ul>                                                                                                  |
|          |                 | <p>4 自分たちの「音のカーニバル」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちのにぎやかな感じは、すずよりもタンブリンの音色が合いそうだよ。</li> <li>・このリズムがはっきりと聴こえるようにするには、音の出し方に気を付けよう。</li> <li>・トライアングルの音は、響かせておくといいね。</li> <li>・海のカーニバルには、この楽器よりも手作り楽器の音色の方が合いそうだよ。</li> <li>・最後の小節は、音色の違う楽器を組み合わせるとカーニバルに合うね。</li> </ul> |
| 13       | 磨き合う            | <p>5 つくった「音のカーニバル」を紹介する。(ききタイム)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じリズムでも楽器が違ったから、にぎやかな感じが伝わったよ。</li> <li>・～と～の楽器の組み合わせると、楽しい感じになっていたね。</li> <li>・楽器に合う音の出し方を工夫していたから、きれいに響いていたね。</li> <li>・強弱を工夫しているところがよかったよ。次は、真似してみたいな。</li> <li>・みんなで違う楽器を演奏すると楽しいね。</li> </ul>               |
| 3        | 振り返る            | <p>6 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。</p> <p>楽器の音色や強弱、組み合わせを工夫すると、イメージに合った音を感じることができるね。</p>                                                                                                                                                                                                     |

「音タイム」で、「共通事項」の「音色」を観点にして、音を聴いたり音の感じ方の違いを話し合ったりさせることで、本時の学習とも関連があることを知らせる。

音楽の要素を工夫することで、音の響き方や感じ方が変わること気付かせ、意欲的に音を選んだり組み合わせたりできるようにする。

曲の特徴やよさ、曲に対する自分の思いをもとに、音楽の要素や仕組みを工夫していけばいいことを知らせる。また、活動のポイントとなる音楽の要素や仕組みを掲示することで、それらを意識しながら活動ができるようにする。

音の特徴が生かされた演奏になっているか気付かせるために、グループの中で演奏する側と聴く側に分けるとよいことを知らせる。また、拍の流れに乗って演奏できるように拍を口ずさんだり、手拍子でたたいたりさせながら演奏させる。

※ 音の出し方や楽器の組み合わせと、音楽の要素とを関連させながら、イメージに合う音を自分の思いをもって表現している。(活動の様子)

- 自分の思いと音楽の要素や仕組みを関連させて表現している児童には、他の要素や仕組みに着目することで、さらに工夫された表現になることを知らせる。
- 活動が停滞している児童には、イメージに合う音を選ばせたり、音楽の要素や仕組みを工夫するとどんな感じになるか問いかけたりすることで、意欲をもたせるようにする。

工夫した音楽の要素や仕組みを発表させてから演奏することで、互いに共通の評価意識をもって聴くことができるようにする。

学習のめあてをもとに学習を振り返らせ、次時の学習への意欲や課題意識をもてるようにする。